

成人向

妄想
ハザード13

THE
HYPERMAN



こ、こっちだ…

ここ、地下シェルター？
こんな場所があったのね

家族か誰かが
ここに避難してるの？

は…早く…

ええ…急ぎましょう！

この日、街は地獄へと変貌した。
道にはゾンビが溢れ、人々を無差別に襲う。
彼女が自室のベッドから起きた時には、既に
事態は深刻だった。
そして街からの脱出を目指して行動する
中、彼女は一人の男に出会う。

彼女は避難を呼びかけたが、この信じられ
ないような事態にシヨックを受けているの
か、男は呆然としていた。

時間にして数十秒ほどではあったが、根気
強く呼びかけを続けたところ、男は何処かつ
いて来て欲しい場所があることがわかった。
何か助けが必要なのだろうと理解した彼
女は、詳しい事情も聞かないままその場所へ
案内するよう男に促した。

しかし彼女はすぐに、その行動が迂闊だっ
たことを後悔することになる。

ん

ここから…

ガキ

わかったわ

出てきて良いわよ！
…助けに来たの！

一緒に避難しましょう！

ガキ

ガキ

ガキ






誰もいないわよ…？

ん…？

ん

ん



何処か別の場所に
逃げたんじゃ…

ハッ
ハッ
ハッ

う…っ!?





いったい何が…

こ、これは…っ

な…っ!?





これ…包帯か何かで

ガチガチに
固められてる…っ

く…っ！

ガチ

ガチ

ガチ



その銃…っ！

目が覚めたんだね

私の装備を奪うために
こんなことを…!!

この…クズ野郎…っ

ガ
ガ
ガ

ガ
ガ
ガ

ガ
ガ
ガ

ガ
ガ
ガ

手荒な真似をして
ゴメンよ

でも、こうでもしないと
きっと君は外で死んでしまう

僕たちは人類の
最後の希望なんだから…

はあっ!?

何を言っ…



きつと…地獄の門が
開いてしまったんだ

家族も友人も皆
目の前でゾンビに食われた…

もう世界は
終わったんだよ

生き残った人類は
もう僕たちだけさ…

そんなことない！

これは全て
アンブレラが…

僕たちが命を繋いで
いかないと…

そうだ…僕らが次の
アダムとイブなんだ…

この男…酷い目に遭って
頭がおかしくなってる…？

家族とかのことは
気の毒だし無理もない
かもしれないけど…

こんな戯言には
付き合ってもらえない

…

でも銃も取られてるし
下手に刺激したら
何をされるか…

この精神状態じゃ、急に
心中しようとしても不思議
じゃないわね

どうかか私を信用させて
この拘束を解かせないと

そうすれば素手でも…

話を合わせて
こっちから
誘惑してみるか…

緊急時だし…使えるものは
自分の身体でも使わないと…っ

ねえ

私と子作りが
したいの？

私の手首のこれを
解いてくれたら

たくさん奉仕して
あげられるわよ？

あなた一人じゃ
つまらないんじゃない？

…言い慣れてなさ過ぎて
我ながら笑えてくるわね…
大丈夫かしら…？

ドキドキ

ドキ

ドキ

ドキ



え...っ
ちよ...ちよっと!

ふうう...っ
うう...うう...っ

だからまず
これを外し...て...

ず...随分...
立派...ね
ま、待つ...て...

やり過ぎた...!?
それより...何か様子が...

で、デカ過ぎ……っ
先っばだけで精一杯よ！

んんっ！

ん……もっ！



んむ…んっ

こいつ…もっと
奥まで挿れるつもり!?

む、無理よ…!
ここで満足させないと…っ

ん…んっ

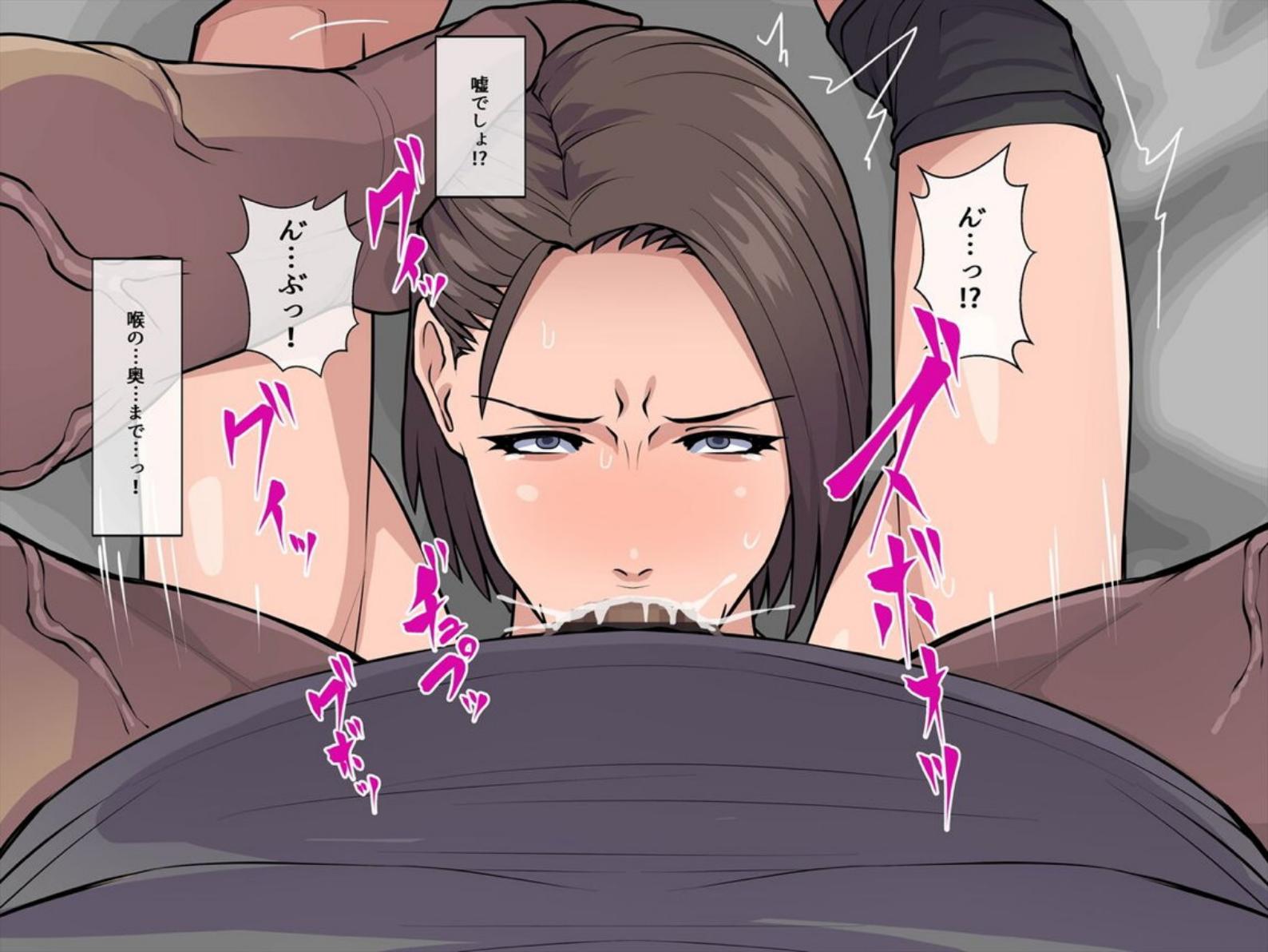


嘘でしょ!?

ん…ぶっ!

ん…っ!?

喉の…奥…まで…っ!



息……が……つ
く、苦し……

おっ！

えっ！

おぼっ！

お……ごえっ！



そ、そのまま…出してる!?
喉の奥が…熱い…っ

お…ぼ…お…!

ん…お…!





え...!!?

え...!!?

た…倒れた…？
ヤバそうな音がしたわね

そういえば何か
苦しそうにしてた…
ような…

はあ

はあ

怪我してる様子は
無かった…わよね

…嫌な予感がする

ゴッ

トクッ

ゴッ



まんまと行きずりの
オヤジの精液飲まされて…

くそ…気持ち悪い…
それに胃の中が熱い…っ

今すぐにもぶん殴って
やりたいところだけど…

まだ無暗に刺激する
のは避けないと…
我慢よ…我慢…!!

そういえば…倒れる前に一瞬
だけ正気に戻ってたような…?

気のせいだったかしら…でも
今なら話を通じる…かも？

ね、ねえ…大丈夫…?

急に倒れて心配
した…わよ

それより

そろそろ…コレ外して
もらえない？

…聞いている？

GIGA

！！！！



あはは

あれじゃ…まるで…

え…っ
何か…様子が…

おお…お…っ

うおお…

ちよ…嘘でしょ!?

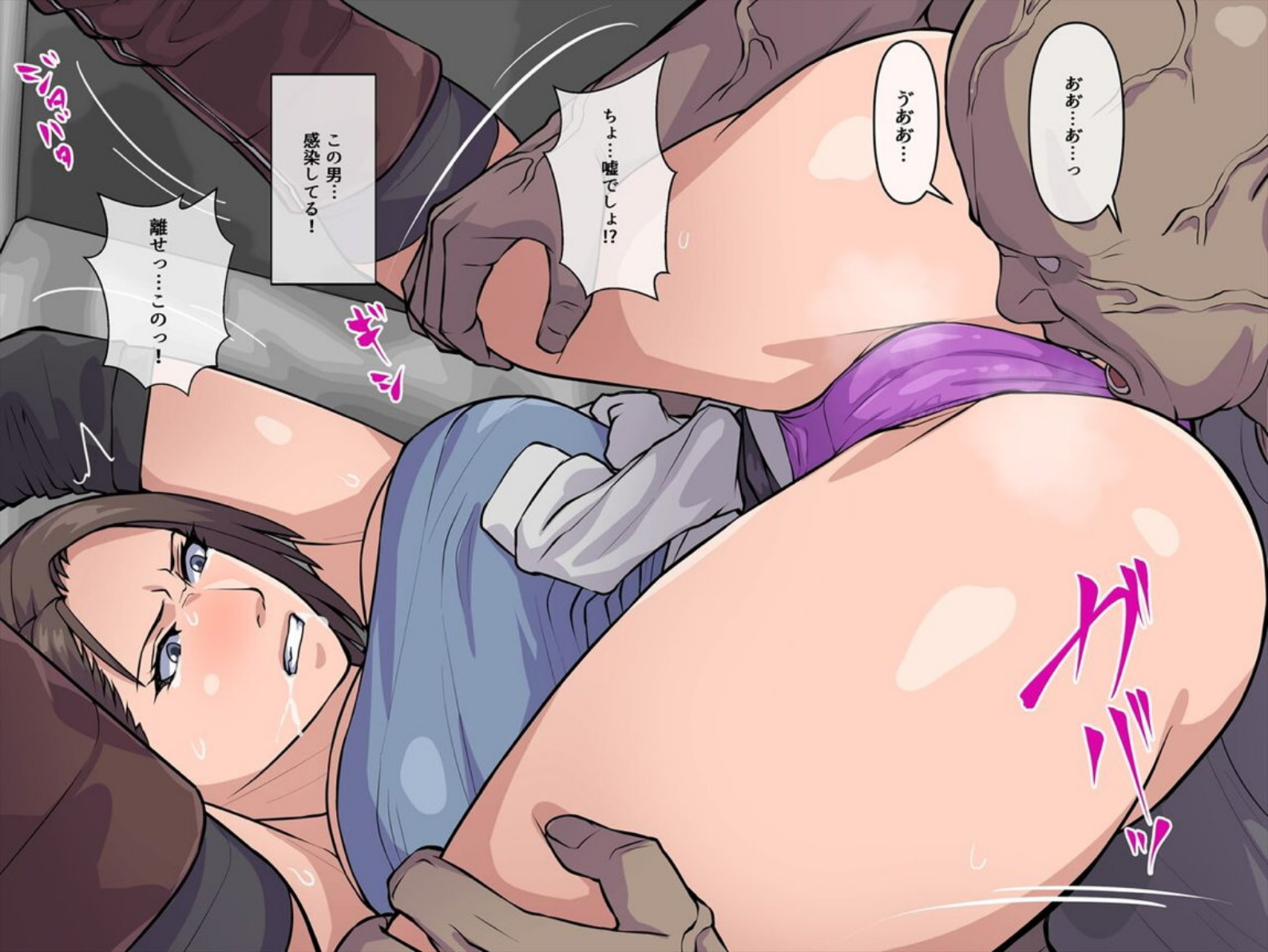
この男…
感染してる!

離せっ…このっ…!

ガッ

ガッ

ガッ



ぼくら…が…

あだ…む…

うっ!?

こいつ何を…っ

まだ発症し切って
無い…?

いや、まさか…

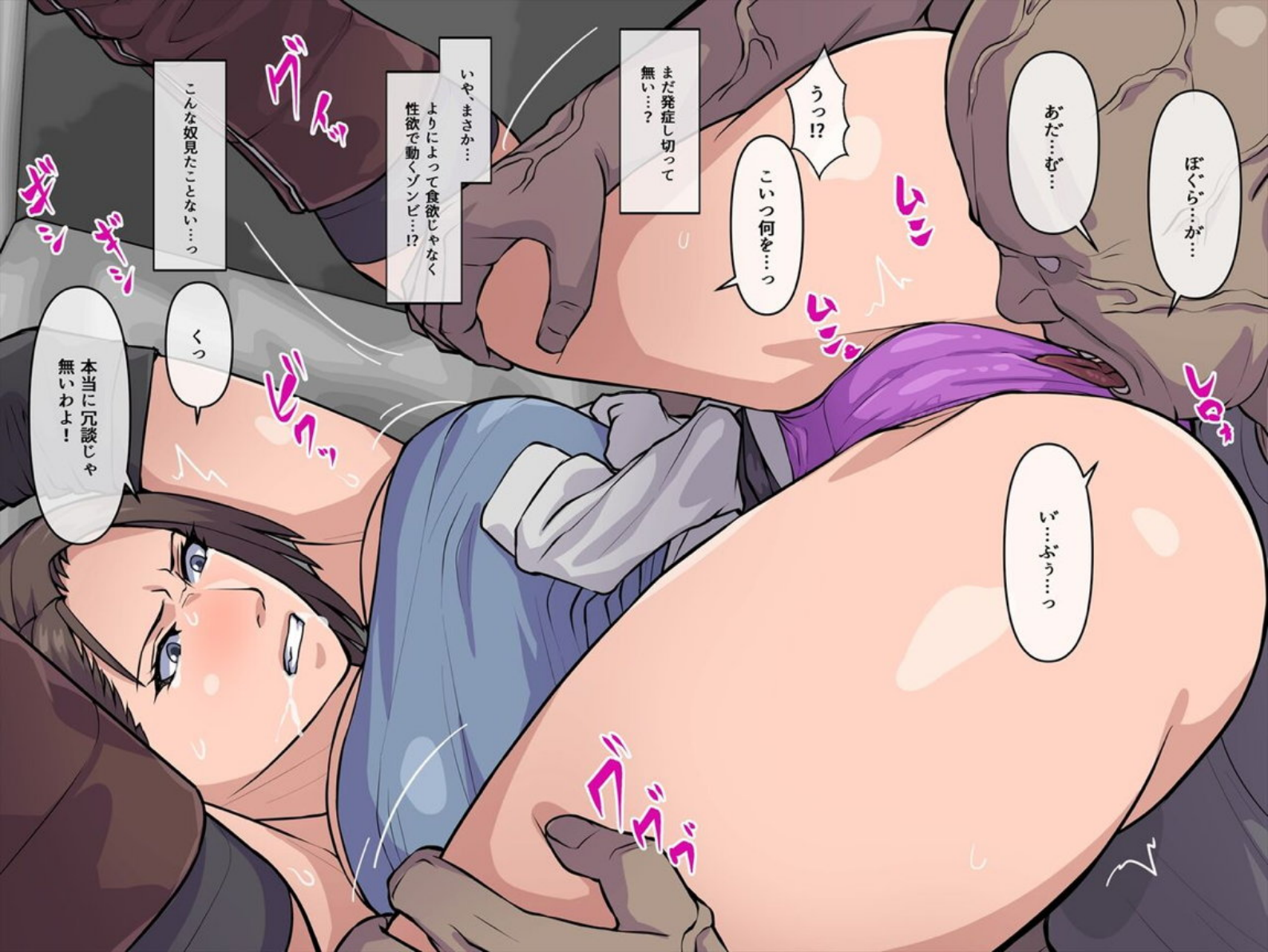
よりによって食欲じゃなく
性欲で動くゾンビ…!?

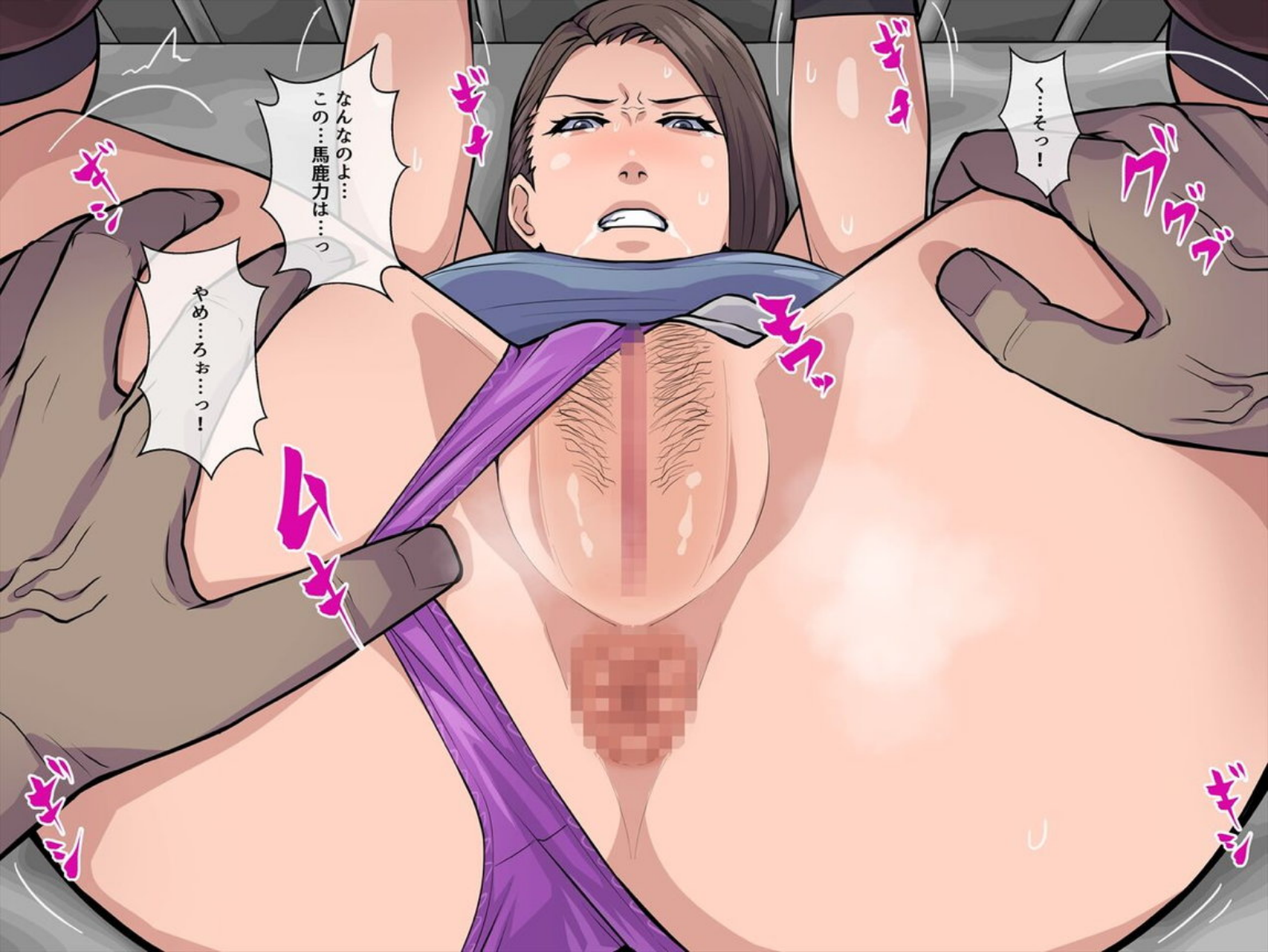
こんな奴見たことない…っ

い…ふう…っ

本当に冗談じゃ
無いわよ!

くっ





なんなのよ…
この…馬鹿力は…っ

やめ…ろお…っ!

く…そっ!



ゾンビ相手に
私を感じてる…!?

ゾンビのくせに…
舌の動きが…っ
こんなの…嫌!

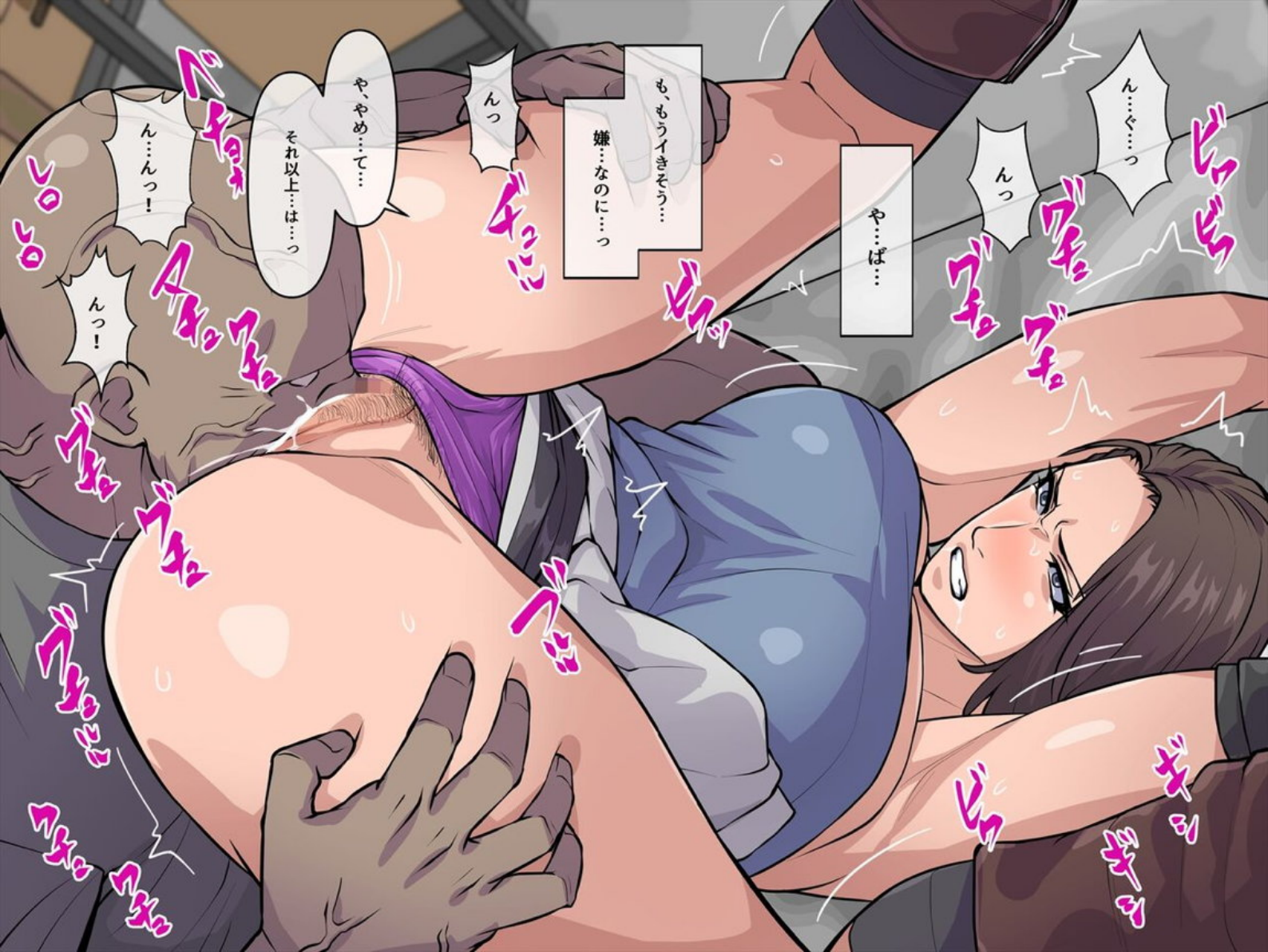
離…せっ!

くっ!

んんっ!

んっ!

うう…くっ



ん……っ

んっ

や……ば……

も、もうイきそう……

嫌……なのに……っ

んっ

や、やめ……て……

それ以上……は……っ

ん……んっ!

んっ!



んあつ!

も、もう
イッた…っ!

今…やめ…てっ!

あ…あつ!

い…いやっ!

おおお

グロ
グロ
グロ

グロ
グロ
グロ

グロ
グロ
グロ

グロ
グロ
グロ

グロ
グロ
グロ

グロ
グロ
グロ

グロ
グロ
グロ

グロ
グロ
グロ

グロ
グロ
グロ

グロ
グロ
グロ

グロ
グロ
グロ



くそ…
ゾンビなんか好き放題されて
こんなにイカされるなんて…っ

ふざ…げんな…っ

おおお…

く…そお!

はは

はは

はは

はは

はは

はは



な...っ

身体が...変異してる!?

おおお

発症からまだ時間も
経って無いのに...

このままこいつが
強力な個体になったら...

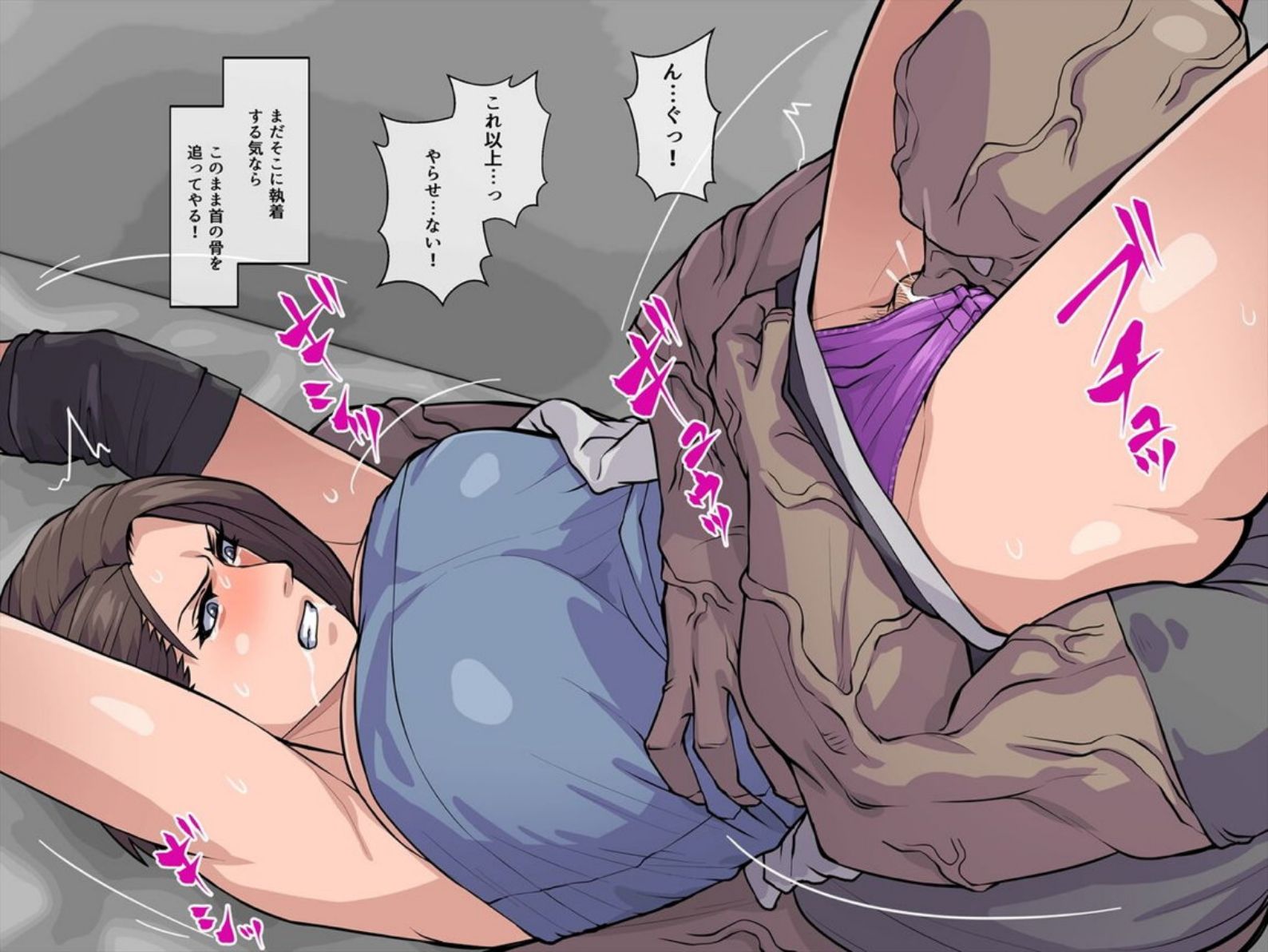
このままじゃ...
まずい...っ

びしょ

びしょ

ぐんぐん

びしょ



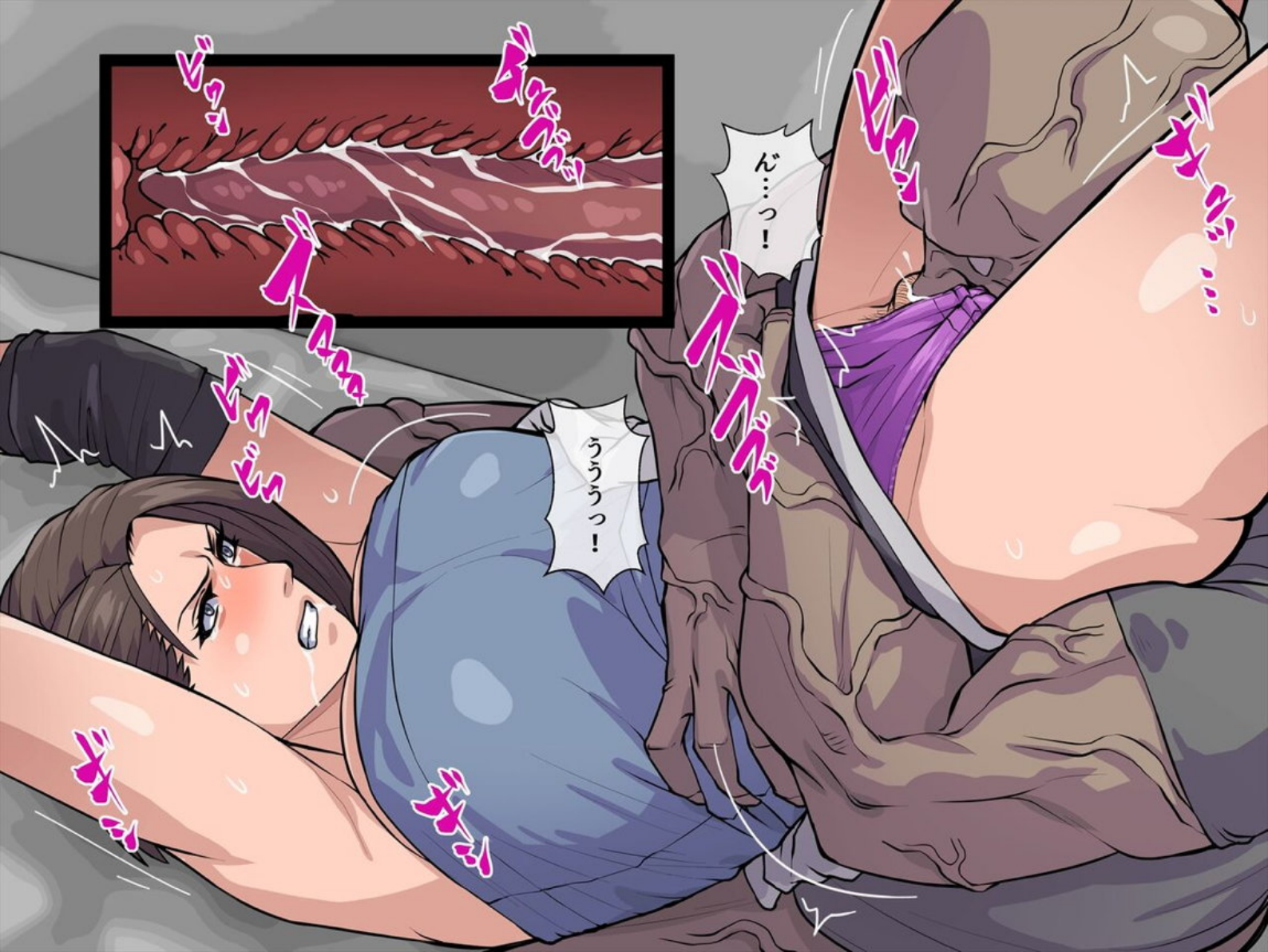
ん……ぐっ！

これ以上……っ

やらせ……ない！

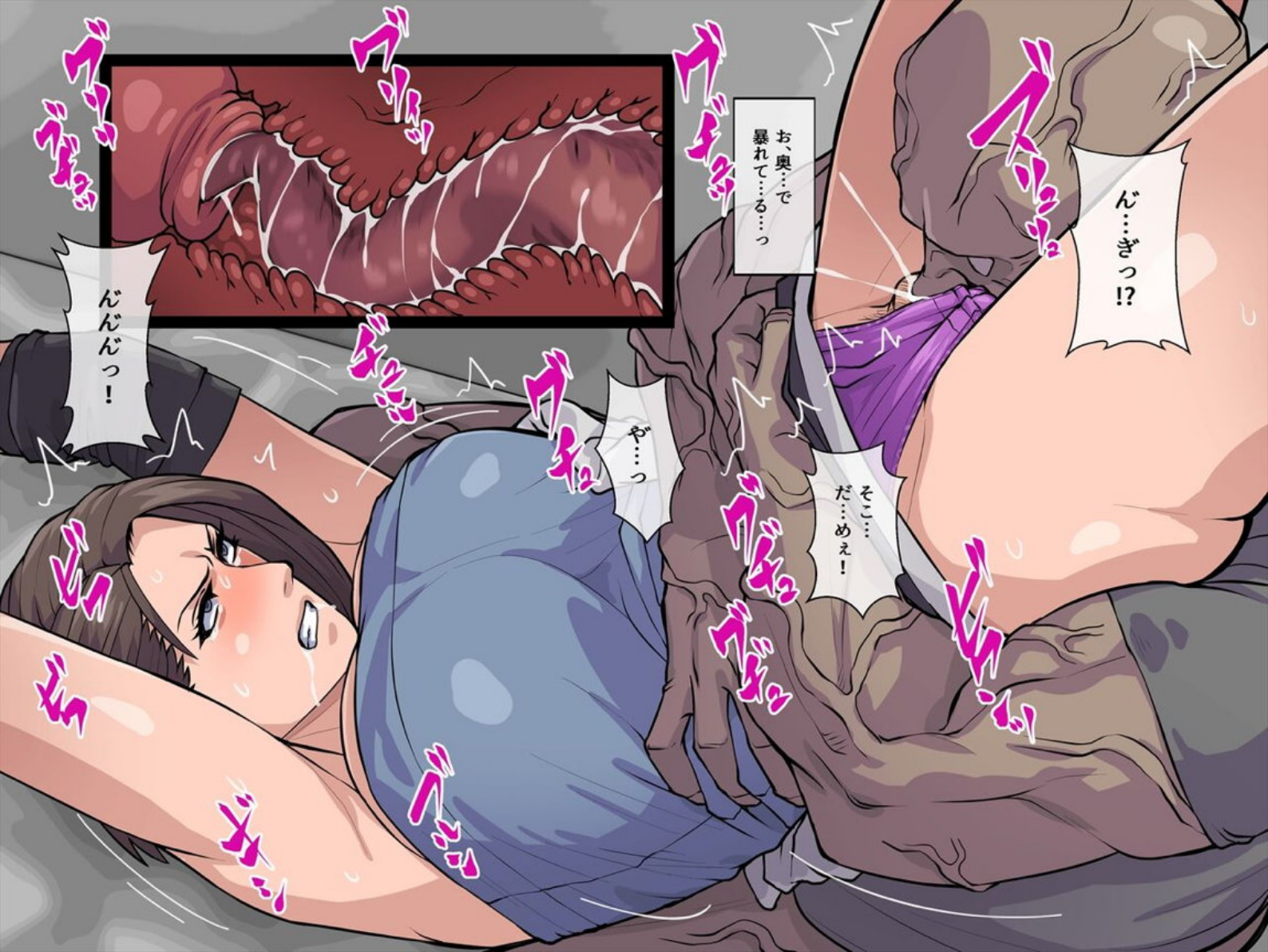
まだそこに執着
する気なら

このまま首の骨を
追ってやる！



ん...っ!

ん...っ!



ん...ぎっ?!

お、奥...で
暴れて...る...っ

だ...そこ...
めえ!

や...っ

んんんっ!

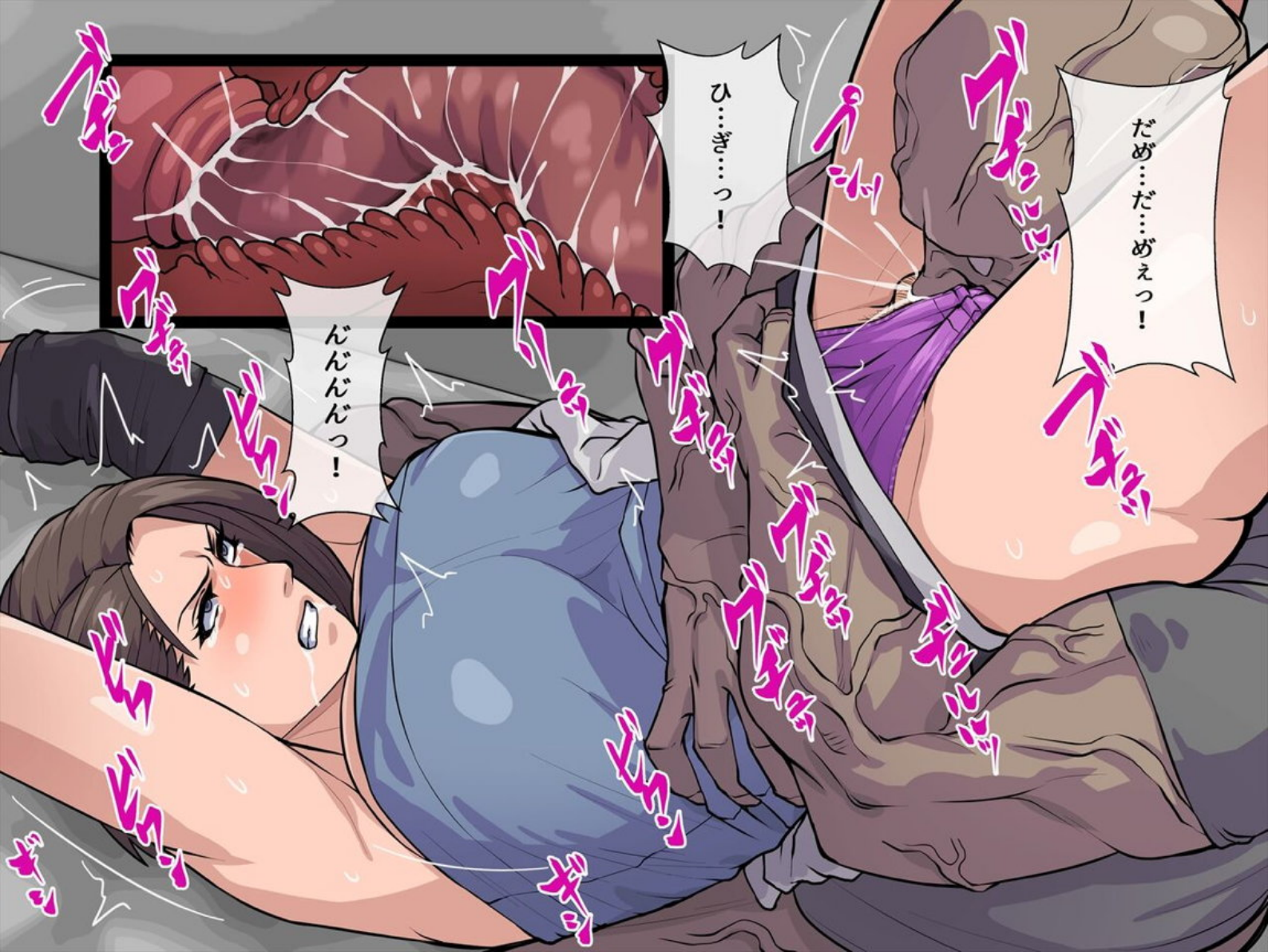




いざっ…っ…!

んおおっ!!





ひ...ち...っ!

だめ...だ...めえっ!

んんんんっ!

んんんんっ!

んんんんっ!

んんんんっ!

んんんんっ!

んんんんっ!

んんんんっ!

んんんんっ!

んんんんっ!

んんんんっ!

んんんんっ!

んんんんっ!

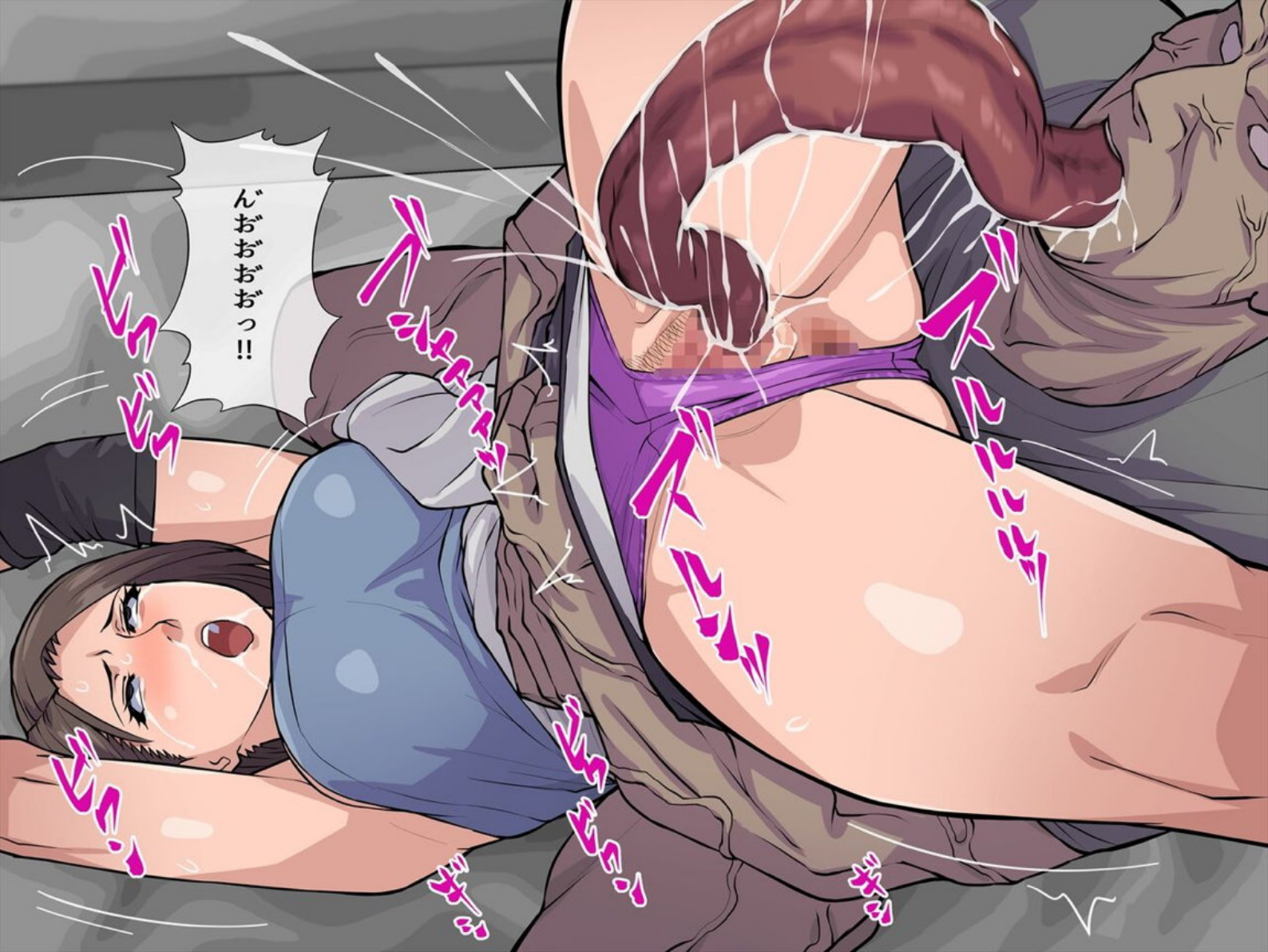
んんんんっ!

んんんんっ!

んんんんっ!

んんんんっ!

んんんんっ!



んがががががが!!

んがががががが!!

んがががががが!!

んがが



あ...が...

今...な、何を...
され...たの...?

身体中に...まるで...
電気...が...っ

あ...あ...

ズンズンズンズン

ズンズン

ズンズン



え...?

あああ...

...あ、だ...め...っ

アッ

アッ

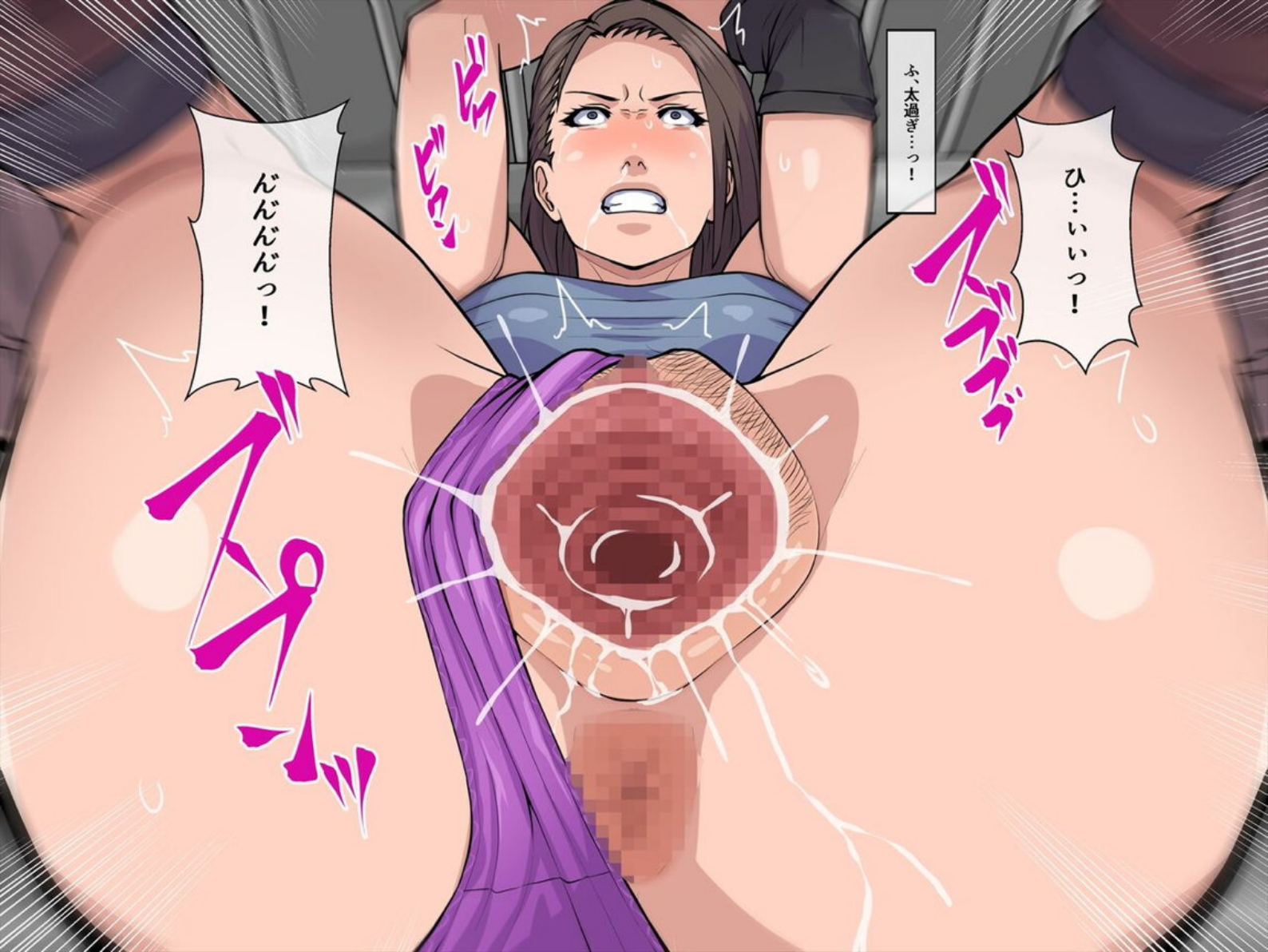
アッ

アッ

アッ

アッ

アッ



ぐんぐんぐんっ!

ふ、太過ぎ…っ!

ひ…ひっ!

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

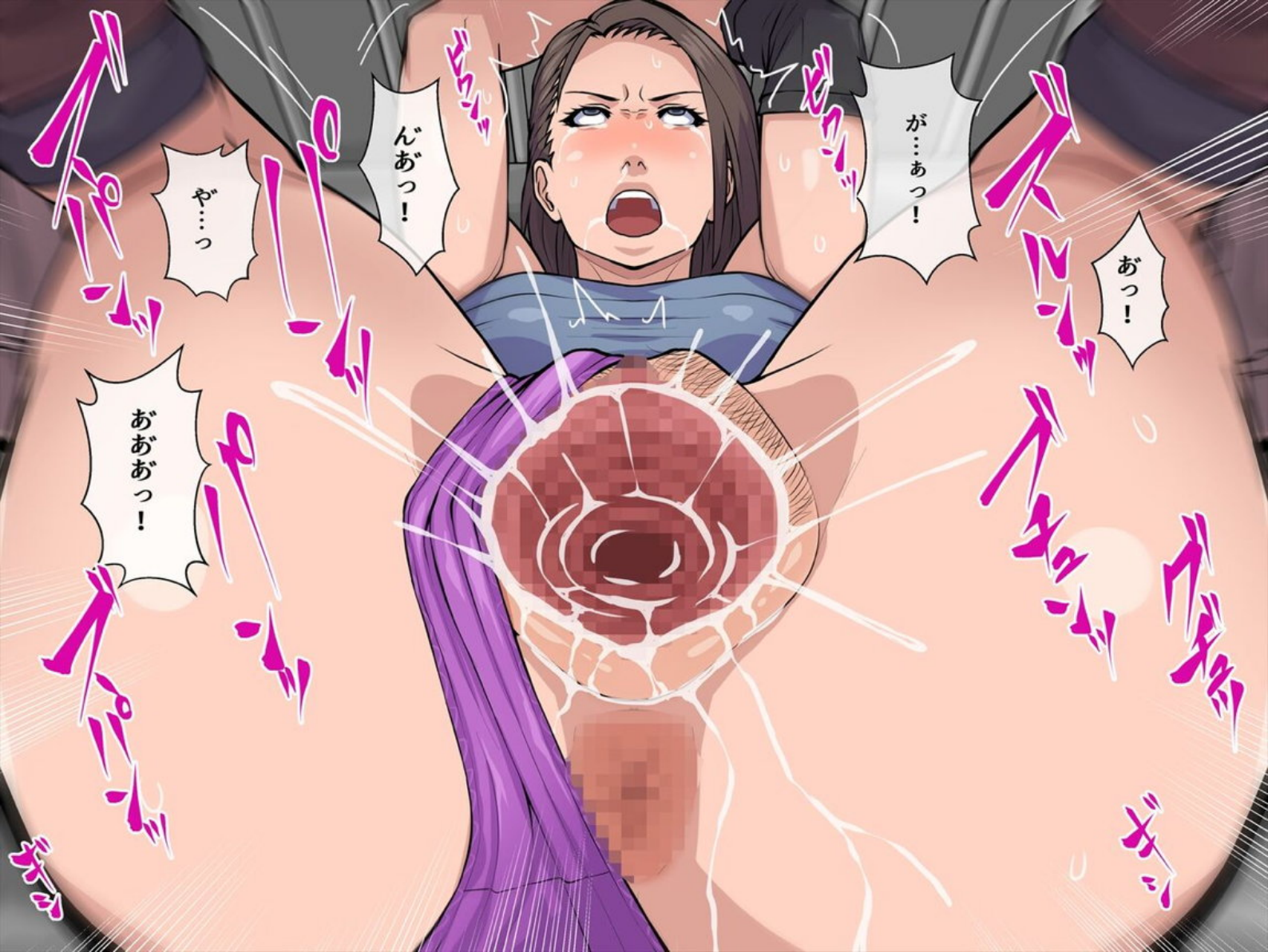


や...め...っ

あっ!

がっ!

やめ...ろおっ!



が...あつ!

んあつ!

や...っ

あつ!

おおあつ!

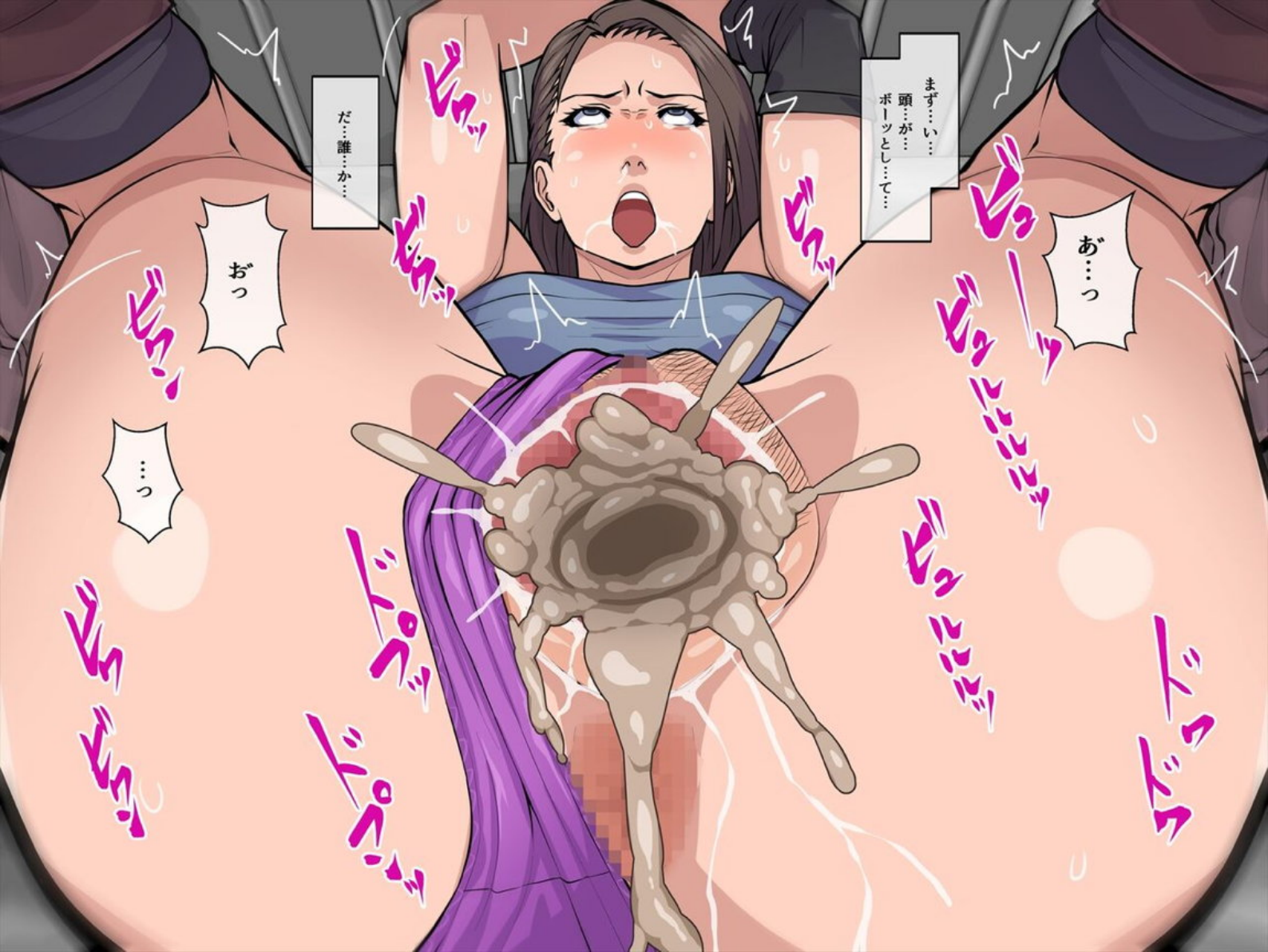


お…おっ!

お…ほっ!

お…っ!

んっ!



だ...誰...か...

まず...い...
頭...が...
ポーツとして...

あ...っ

おっ

...

ビュッ

ビュッ

ビュッ

ビュッ

ビュッ

ビュッ

ビュッ

ビュッ

ドッ

ドッ

ドッ

ドッ

ドッ

ドッ



あ...っ

か...は...

彼女の膣内には、ゾンビの精液が穴の外に溢れてしまうほど大量に注ぎ込まれた。しかもそれはウイルスの影響によって見た目以外の全ての性質が変容しており、それが彼女の粘膜に徐々に染み込んでいく。そしてまるでそれ自体が別の生き物であるかのように、穴の外に溢れていた精液までもが、彼女の穴の奥へとひとりりてに入り込んでいった。

そしてそれは彼女の体内で媚薬に似た成分を生成し始め、彼女の肉体を性玩具と呼ぶに相応しい物へと変貌させる準備を開始させた。



今度…は…
何…を…

ん…ん…

来る…な…

アッ

ズン

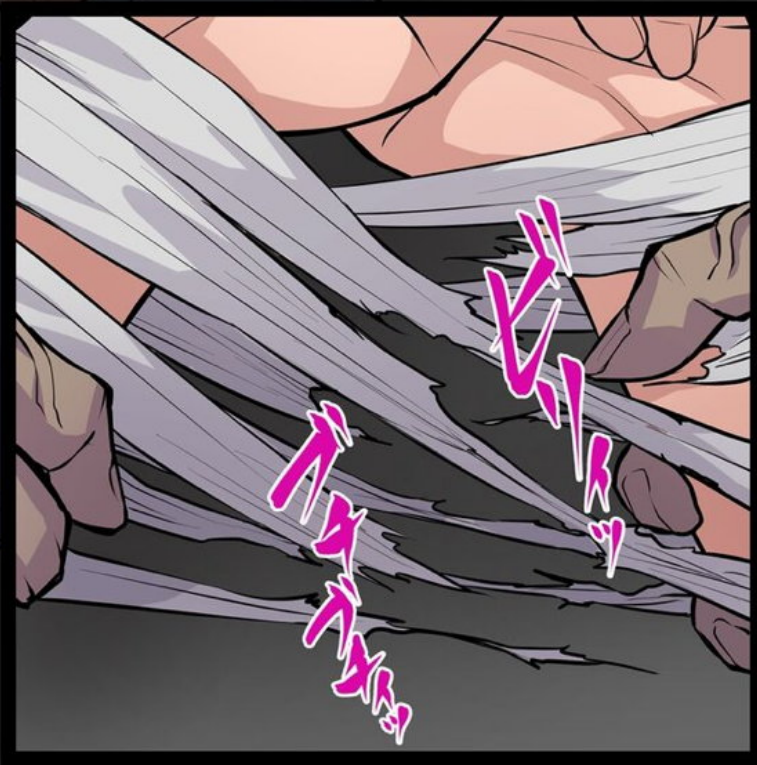
ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

痛…っ
え…!?



ど…どうして…
まさか…正気に…?

カッ

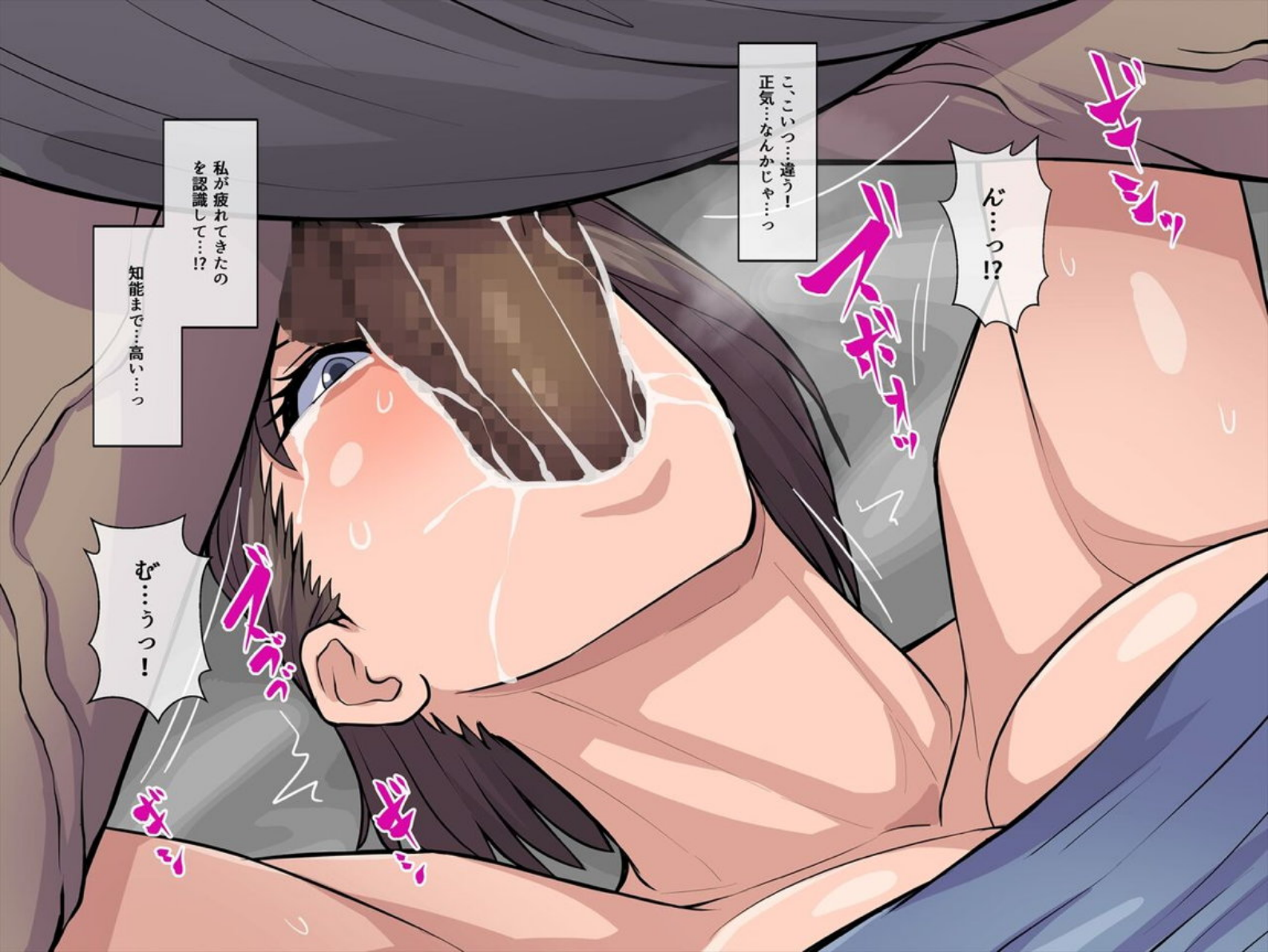
こ、こいつ…違う！
正気…なんかじゃ…っ

ん…っ？

私が疲れてきたの
を認識して…!?

知能まで…高い…っ

む…っ！



こい…っ…っ
なんて重さなの！

両手が自由に
なったのに…
思うように力が
出ない…っ

思った以上に
消耗してるかも…

く…っ
こいつのが喉に…っ

さ、さつきより…
大きくなってない…!?
顎…が…
外れそう…!

むうっ！

ん…もお…っ！

グッ
グッ
グッ
グッ

ガ
ガ
ガ
ガ

ギ
ギ
ギ

グ
グ
グ
グ

ギ
ギ
ギ
ギ



ん…んんっ!

んむうっ!

いつまで…私の股
しゃぶってんの…よ…

それに…今度は
お尻の穴まで…っ

私にそっちで
する趣味は…

ん…もっ!?

んんんんん

んんんんん

んんんんん

んんんんん

んんんんん

んんんんん



なんで…こんなに
感じて…っ

お…っ！

ん…んあっ！

また…イカされる…っ

こいつの
玩具にされてる…！

んぼおっ！



くや…しい…っ

化け物の愛撫を…

私の身体が…
勝手に…喜んで…で…

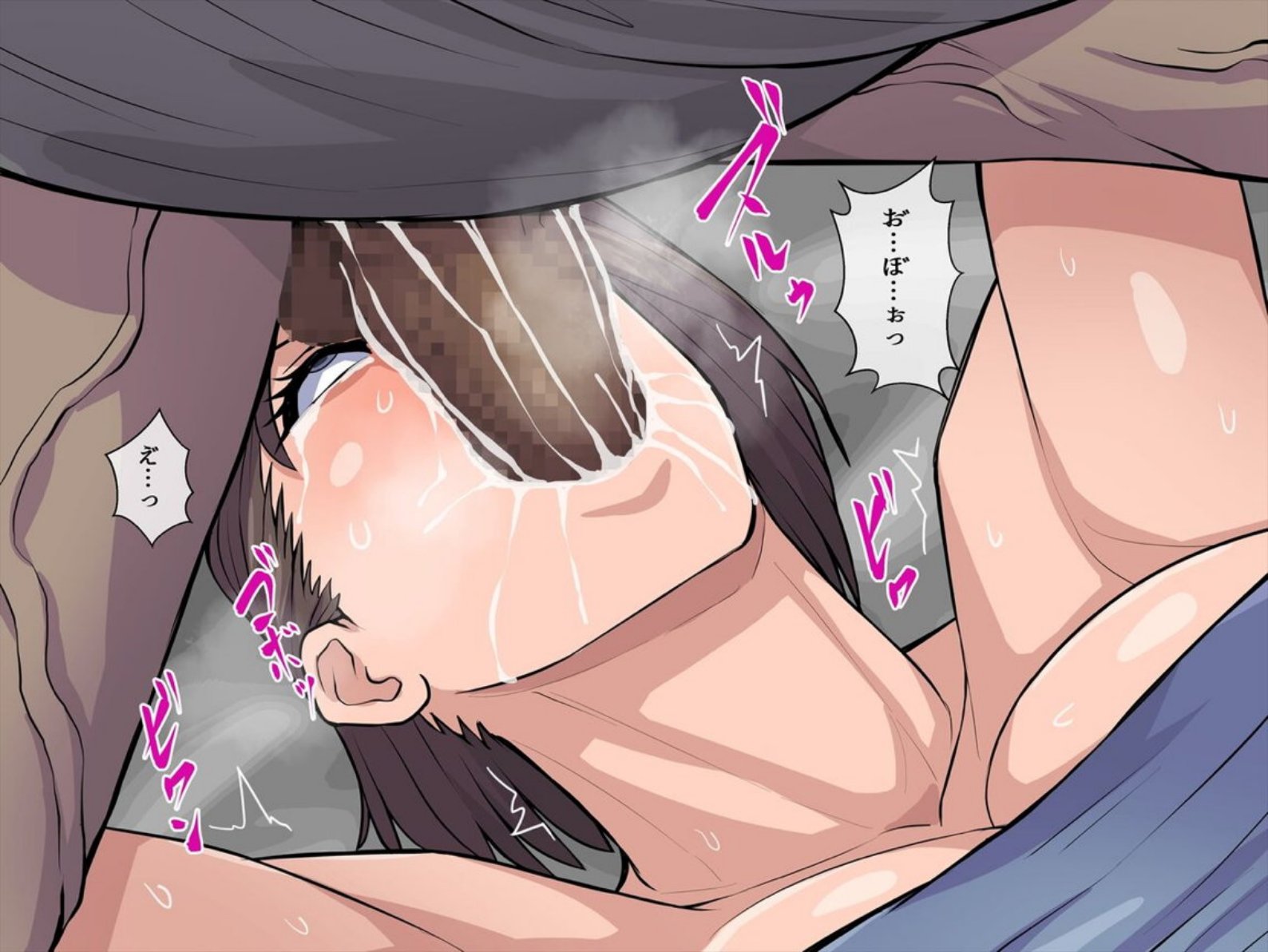
おご…っ!?

ま、また精液が…っ…
流し…込まれてる…っ

喉の奥…が…
…熱いっ!

おえ…げえっ!





え...っ

お...ぼ...ちっ

ぐわ...っ

ぐわ...っ

ぐわ...っ

くそ…イカされ過ぎて…
力が上手く…入ら…ない…

こい…っ…なんでまだ
こんなに元気なの…っ

ズズズズズ

ズズズ





おおお…

え…嘘で…しよ…

まだ…大きく…!?

何よ…これ…

これじゃ
まるで…腕…

いん

いん

いん

いん

ざん

いん

ざん

ガ
ゴ
ゴ

く...っ

離...せっ!

ア
ッ
ッ

いや...っ!

そんなの...無理よ!

擦りつけるな!
...このっ!

ア
ッ
ッ

ア
ッ
ッ

ア
ッ
ッ





が...あ...あ...あ...!!

や...めっ!!

ビク
ビク

グ
グ
グ

ギ
ギ
ギ

ギ
ギ
ギ

ビク
ビク
ビク

ギ
ギ
ギ
ギ
ギ

嘘...でしょ...

ぎ...っ

おおお

気持ち...いい...わけ...
...が...無いの...に...っ

か...は...

これ...まず...い...

動かし...ちや...
...だ...め...

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん



ひぎいっ!

おが…おあっ!

やめ…でえっ!

いやあおあっ!!

ア
レ
レ





い...やあつ!

んおつ!

し...ぬっ!!

やっ!

おっ!

おあつ!!

おあつ!!

おあつ!!

おあつ!!

おあつ!!

おあつ!!

おあつ!!

おあつ!!

おあつ!!

おあつ!!

おあつ!!

おあつ!!



も...っ!!

イツ...で...っ!!

...るっ!!

死ぬっ!!

あっ!

あおあっ!!

あおあっ!!

あおあっ!!

あおあっ!!

あおあっ!!

あおあっ!!

あおあっ!!



ががが
ががが
ががが

…が…が
がが

がが

ががが
ががが
ががが

ががが
ががが
ががが

ががが
ががが
ががが

ががが
ががが

ががが
ががが



う...あ...

う...あ...

う...あ...

う...あ...

...あ

う...あ...

う...あ...



んお...お...っ

あ...あ...あ...っ

チン

チン

チン

チン

チン

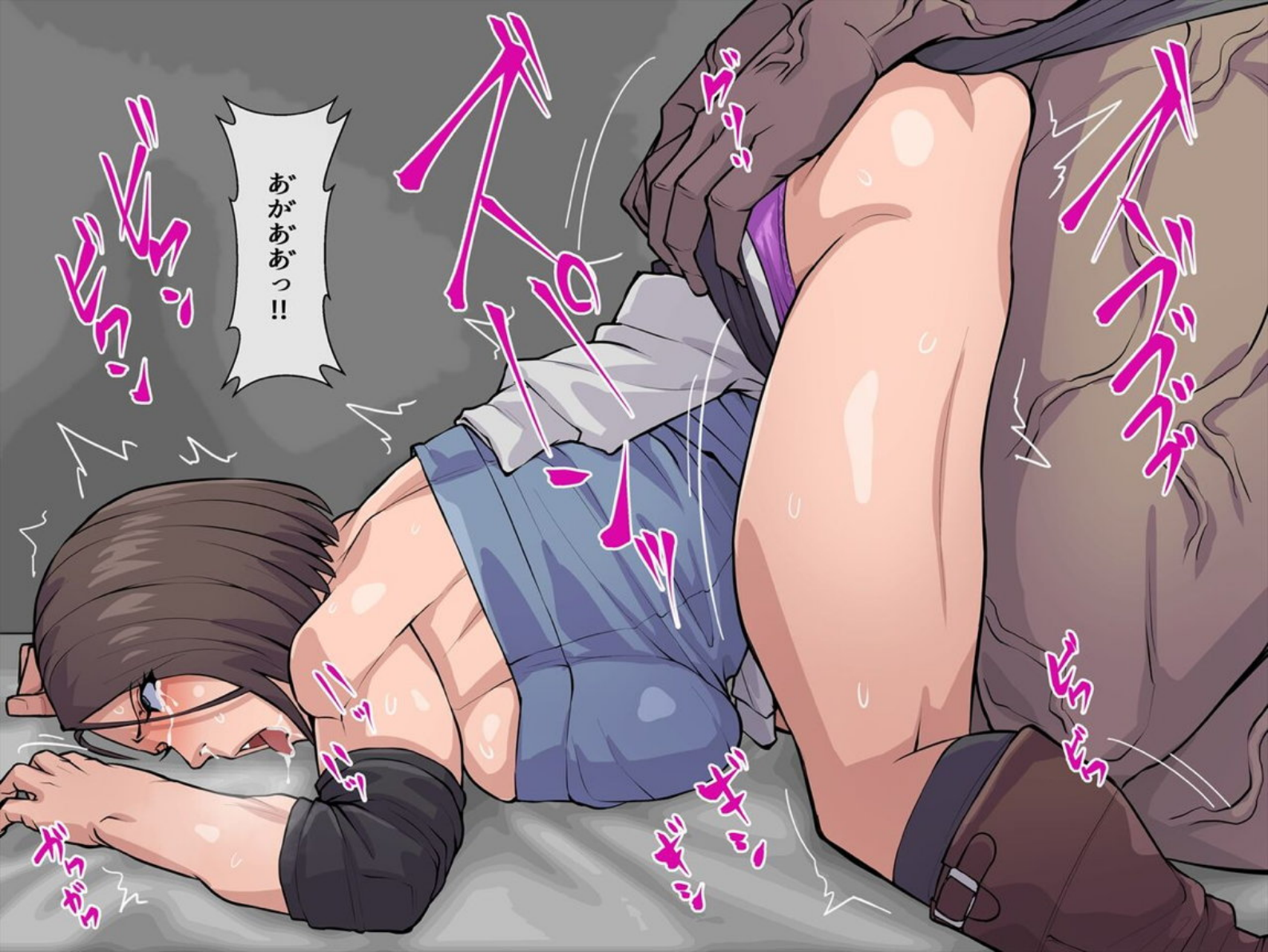
チン

チン

あ...え...

ひひひ





あがあがっ!!

あがあがっ!!

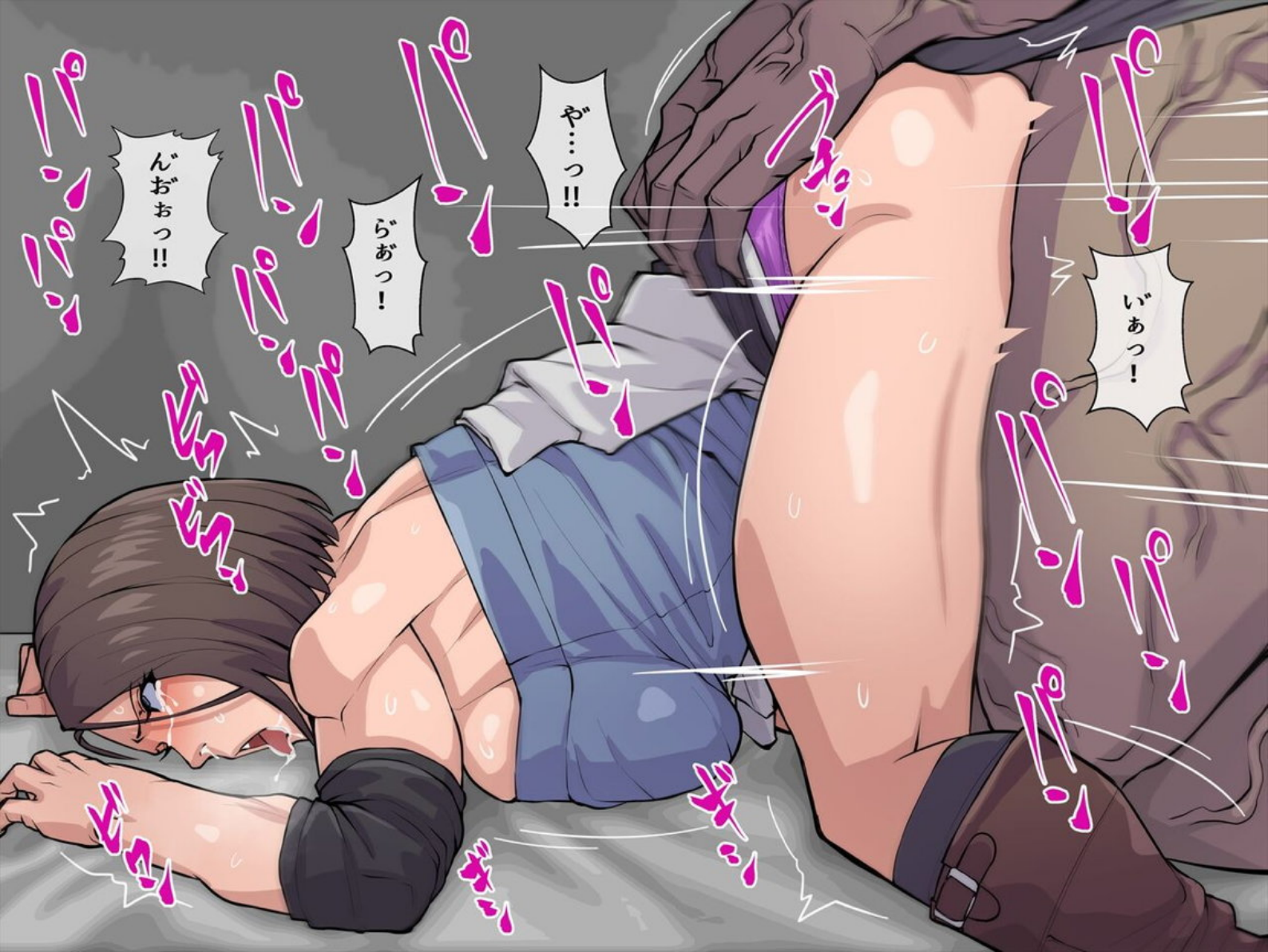
あがあがっ!!

あがあがっ!!

あがあがっ!!

あがあがっ!!

あがあがっ!!



んがおっ!!

らあっ!

や...っ!!

いあっ!

だず…っ！

げぞっ！！

あっ！

じ…ぬっ！

いやあっ！！

ゴッポッポッポッ

ゴッポッポッ

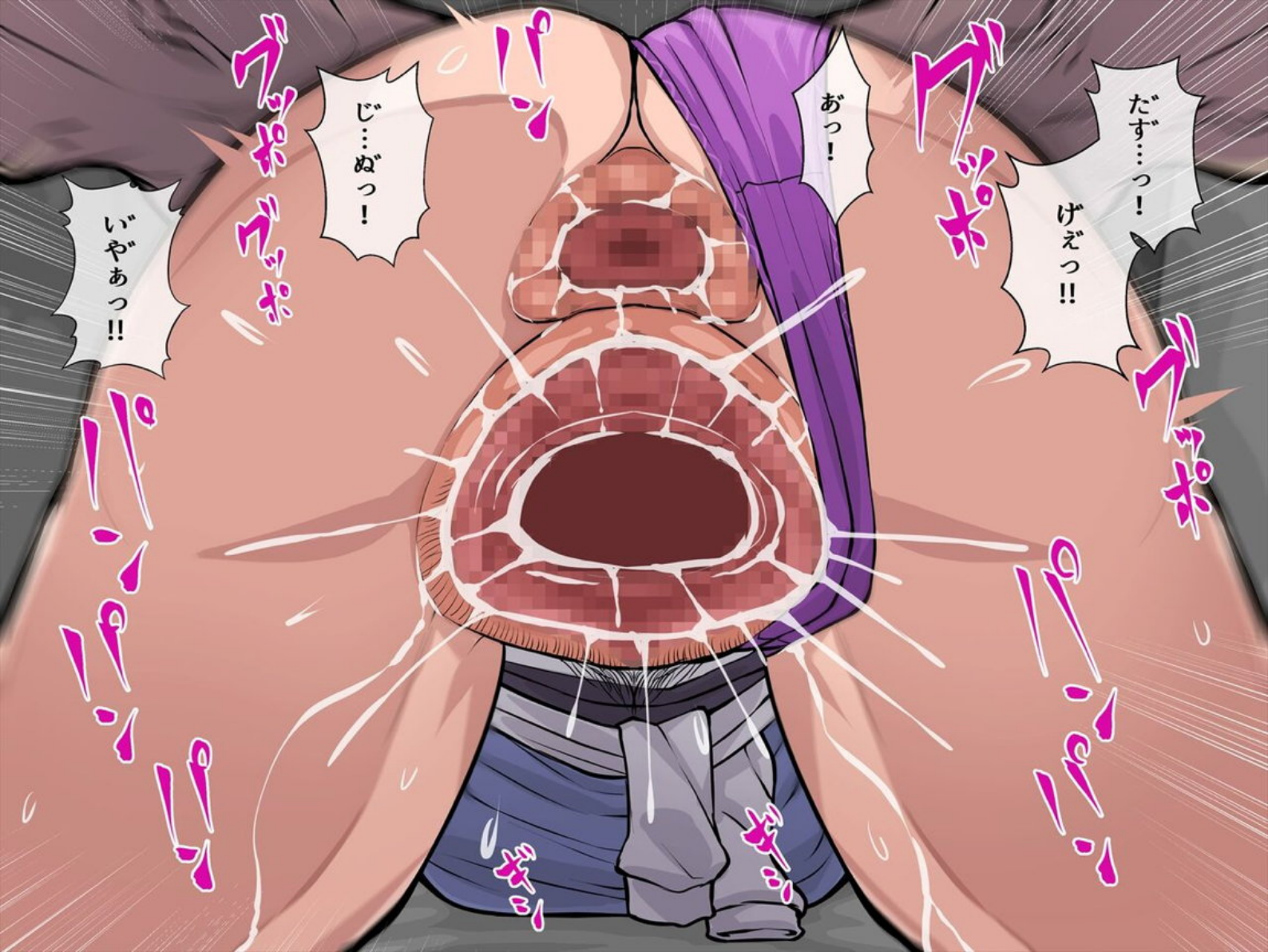
ゴッポッ

ゴッポッポッポッ

ゴッポッポッ

ゴッ

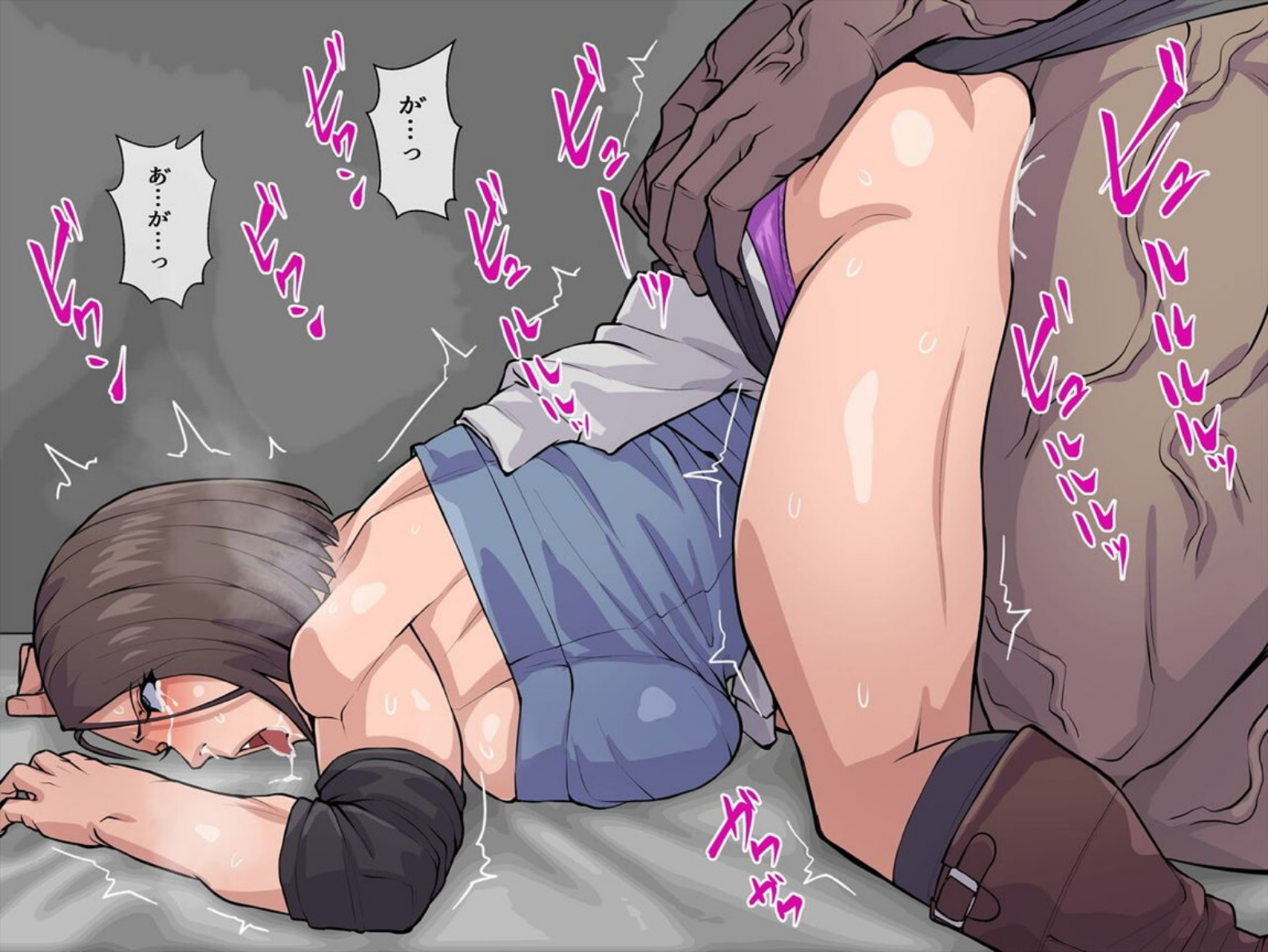
ゴッ



あおおっ!!

あ…がああっ!!






あ...が...っ

が...っ

びん
びん



彼女は行為中、決して諦めずに反撃の機会を待っていたが、その時が来ることはなかった。

彼女がいくら気を張っていたとしても、彼女の意思に関係なく肉体は快楽に狂い、体力を消耗させる。

そしてとうとう限界を迎えた彼女は、意識を手放した。

しかしゾンビがそれを構うことなどあるはずも無く、彼女が気を失っている間にも精液は注がれ続けた。



あ...うん

END